

(株)東京航業研究所、(有)文化財 COM

6. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。特に、大井氏館跡遺跡第14地点の調査にあたっては富士見市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。また、江川南遺跡第19地点の調査にあたっては上福岡市教育委員会ならびに同市作業員の方々に多大な協力を頂いた。記して厚く感謝の意を表したい。

〈発掘調査参加者〉(敬称略)

新井和枝、飯塚泰子、井上晴江、内田潔、大曾根キク子、笠原英子、加藤智香子、金子君子、小林こずい、河野匠、河野格、酒井昭、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木英子、鈴木エミ子、鈴木勝弘、関田成美、高貝しず子、戸澤竹二、中嶋末子、野岡由紀子、林きぬ子、比嘉洋子、増沢勝実、村端和樹、若尾久美子、若林紀美代

(富士見市教育委員会) 飯田久子、上田寛、川上文明、佐々木真理子、島田仁、清水七枝、関根輝子、高野ナミ、塚本政勝、戸田美根子、富田茂夫、中川和弘、成田淑美、成田良一、羽田美代子、吉田信江

(上福岡市教育委員会) 長田弘毅、壺岐ヒサ子、井川弘、宇佐美弘澄、遠藤忠志、小田静夫、小野沢保孝、菊口繁子、西城満期子、鈴木ちい、滝沢久嘉、富寺佐代子、中村正、宮崎達夫、吉田寛

〈整理作業参加者〉(敬称略)

青山奈保美、石垣ゆき子、大久保明子、小林登喜江、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子、中田藤子、福島雅子、山口妙子

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として

遺構配置図 1 : 300 遺構平面図・遺物出土状況図 1 : 60、1 : 30 炉などの詳細図 1 : 30
土器実測図 1 : 4 土器拓影図 1 : 3 石器実測図 1 : 3、2 : 3 銭 1 : 1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないのは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート▲ 礫○

(4) 土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(5) 土器断面図は、「網目」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号にしている。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括して大井町教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2002年度埋蔵文化財調査一覧表

	遺跡・地点名	申請地	面積(㎡)	原因	試掘期間	調査期間	備考
1	亀居遺跡第56地点	亀久保2-13-14	172	個人住宅	—	2002.11.5~11.21	教育委員会で本調査
2	鶴ヶ舞遺跡第6地点	鶴ヶ舞1-84	474	個人住宅	2002.9.10~9.13	—	試掘調査
3	江川南遺跡第16地点	東久保1街区	3,752	給油所	2002.9.24~10.4	—	試掘調査
4	江川南遺跡第17地点	東久保1街区20,22,23	474	土地区画整理	2002.10.29~11.11	—	試掘調査
5	亀久保堀跡遺跡第27地点	東久保31街区2,3画地	980	店舗	2002.6.10~6.11	—	試掘調査
6	東久保遺跡第50地点	東久保3-22	102	個人住宅	2002.9.24	—	試掘調査
7	東久保遺跡第51地点	東久保18-11画地	155	個人住宅	2002.12.3	—	試掘調査
8	東久保遺跡第52地点	東久保4街区3画地	64	個人住宅	2003.2.6~2.7	—	試掘調査
9	東久保西遺跡第15地点	東久保9街区3画地	225	個人住宅	2003.2.3~2.5	—	試掘調査
10	東久保南遺跡第27地点	東久保63街区1画地	610	共同住宅	2002.5.29~6.7	—	試掘調査
11	東久保南遺跡第28地点	東久保60街区3・4画地	322	共同住宅	2002.9.13~9.21	—	試掘調査
12	東久保南遺跡第29地点	東久保64街区1・4画地	736	駐車場	2003.3.17~3.20	—	試掘調査
13	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	165	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
14	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	155	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
15	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	132	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
16	西ノ原遺跡第122地点	大井苗間西ノ原99-1	140	個人住宅	—	2002.6.21~7.22	教育委員会で本調査
17	西ノ原遺跡第123地点	大井・苗間19街区10画地	252	共同住宅	2002.9.3~9.9	—	試掘調査
18	西ノ原遺跡第124地点	苗間137-2	524	個人住宅	2002.10.2~10.6	2002.10.8~10.11	教育委員会で本調査
19	西ノ原遺跡第125地点	旭1-8-2	182	個人住宅	2003.2.14~2.19	—	試掘調査
20	中沢前遺跡第20地点	大井・苗間33 35-8-1	762	老人介護施設	2003.2.3~2.5	2003.4.7~6.3	試掘後、調査会で本調査
21	中沢前遺跡第24地点	大井・苗間30-5	185	個人住宅	2003.2.7~2.13	—	試掘調査
22	神明後遺跡第18地点	苗間304-1,303-6	672	分譲住宅	2002.5.15~5.25	2002.5.27~6.21	試掘後、調査会で本調査
23	神明後遺跡第19地点	苗間264-4	216	個人住宅	2002.9.18~20	—	試掘調査
24	神明後遺跡第20地点	苗間293-11	143	個人住宅	2003.1.14~1.15	—	試掘調査
25	神明後遺跡第21地点	苗間283-1	674	造成	2003.1.10~1.30	—	試掘調査
26	浄禅寺跡遺跡第22地点	苗間373-5,377-5・3・4,373-8	935	分譲住宅	2002.4.23~5.14	—	試掘調査
27	大井宿遺跡第7地点	大井・苗間37街区14画地	257	事務所	2002.4.15~4.16	—	試掘調査
28	大井宿遺跡第9地点	大井1-3-14,15	1,617	宅地造成	2003.2.26~4.3	2004.7.30~9.3	試掘後、調査会で本調査
29	大井氏館跡遺跡第14地点	大井・苗間129街区2画地	984	共同住宅	2002.5.22~6.6	2002.6.20~8.9	試掘後、調査会で本調査
30	大井氏館跡遺跡第15地点	大井・苗間126街区1画地	135	個人住宅	2002.7.24~8.2	—	試掘調査
31	大井氏館跡遺跡第16地点	大井2-242-1	677	個人住宅	2002.8.5~8.22	2002.8.23~9.5	教育委員会で本調査
32	大井氏館跡遺跡第17地点	大井1-11-9	50	道路	—	2002.11.19~12.2	教育委員会で本調査
33	大井氏館跡遺跡第18地点	大井・苗間80-6-9	476	個人住宅	2003.1.17~1.22	—	試掘調査、大井宿8地点を変更
34	本村遺跡第99地点	大井・苗間99-1	446	共同住宅	2002.6.19~21	2002.7.1~7.31	試掘後、調査会で本調査
35	本村遺跡第100地点	大井・苗間85街区7画地	463	分譲住宅	2002.8.20~8.26	—	試掘調査
36	本村遺跡第101地点	大井・苗間131-2	217	店舗併用住宅	2002.9.30~10.4	—	試掘調査
37	本村遺跡第102地点	大井・苗間101-7画地	1,264	共同住宅	2002.11.11~11.15	2002.12.11~2003.2.10	試掘後、調査会で本調査
38	本村遺跡第103地点	大井143	237	個人住宅	2003.2.13~2.18	—	試掘調査
39	本村遺跡第113地点	東原52-22	1,051	駐車場	2002.8.22	—	試掘調査、地点を後付加
40	東台遺跡第39地点	大井626-8	100	個人住宅	2002.6.3~6.20	—	試掘調査
面積合計			21,181				

XV 神明後遺跡の調査

1 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約300m、さかい川の谷頭部から約1,500m下った右岸に位置し、標高12~16m、現谷底との比高差は1.5mを測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡・苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い今後徐々に再開発が進むと思われる。

本遺跡の最初の調査は1987年に町史編纂事業の一環として行なわれた。その後1993年に新駅へ延びる道路をはじめ、2005年3月現在25地点で試掘調査および発掘調査が行なわれている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

2 神明後遺跡第18地点

(1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より2002年4月30日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、近接地では縄文時代の住居跡を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

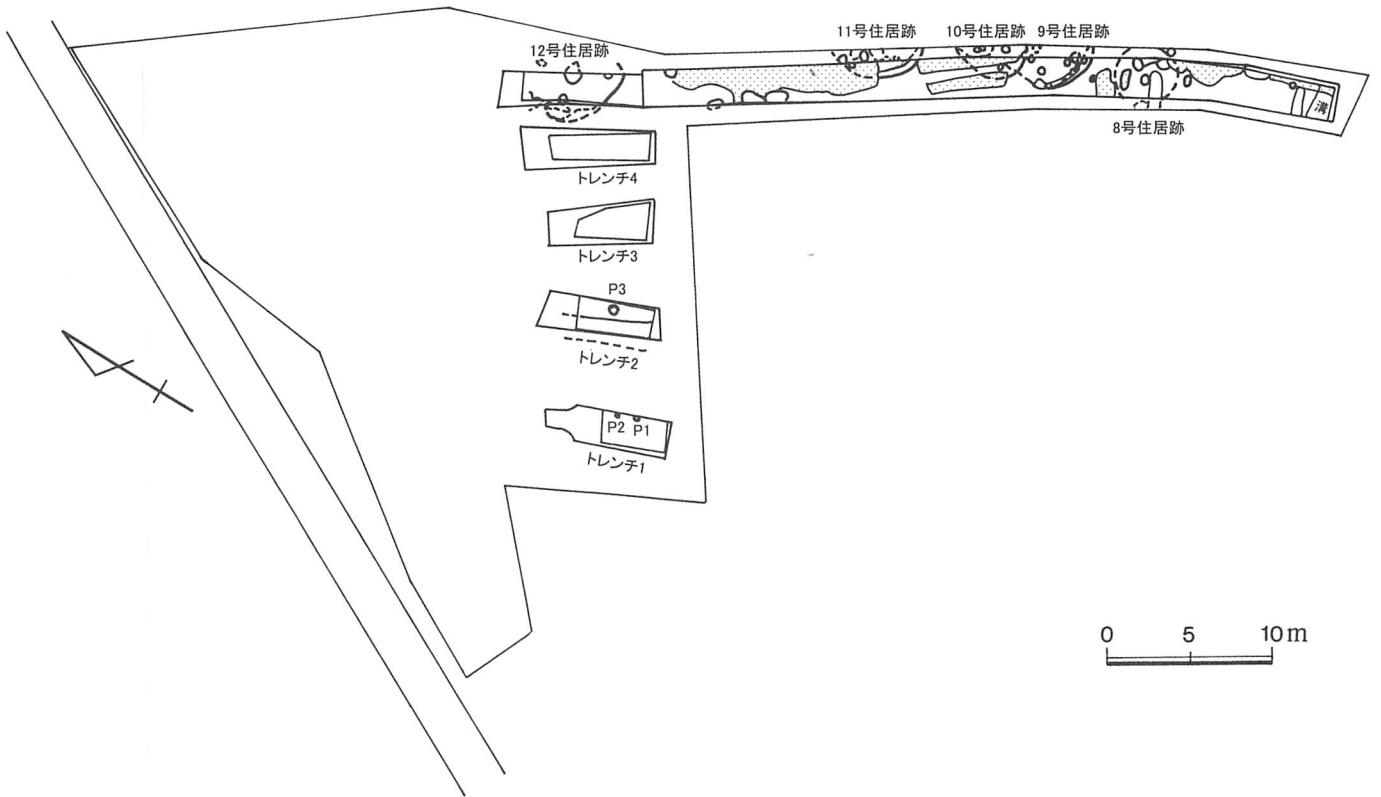
調査は2002年5月13日から同年5月25日に行なった。幅約2mのトレンチ5本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、全てのトレンチで遺構覆土と思われる黒色土を検出した。遺構の性格を確認するため一部掘り下げて調査したところ、縄文時代の住居跡と時期不明の溝であった。原因者と再協議の結果開発の変更ができないため、原因者負担による本調査を実施することになった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ない、試掘調査を終了した。

本調査は2002年5月27日から同年6月21日まで大井町遺跡調査会が行ない、縄文時代時代中期住居跡5軒、土坑、古代～中世の堀跡を検出した。(大井町遺跡調査会で報告書刊行予定)

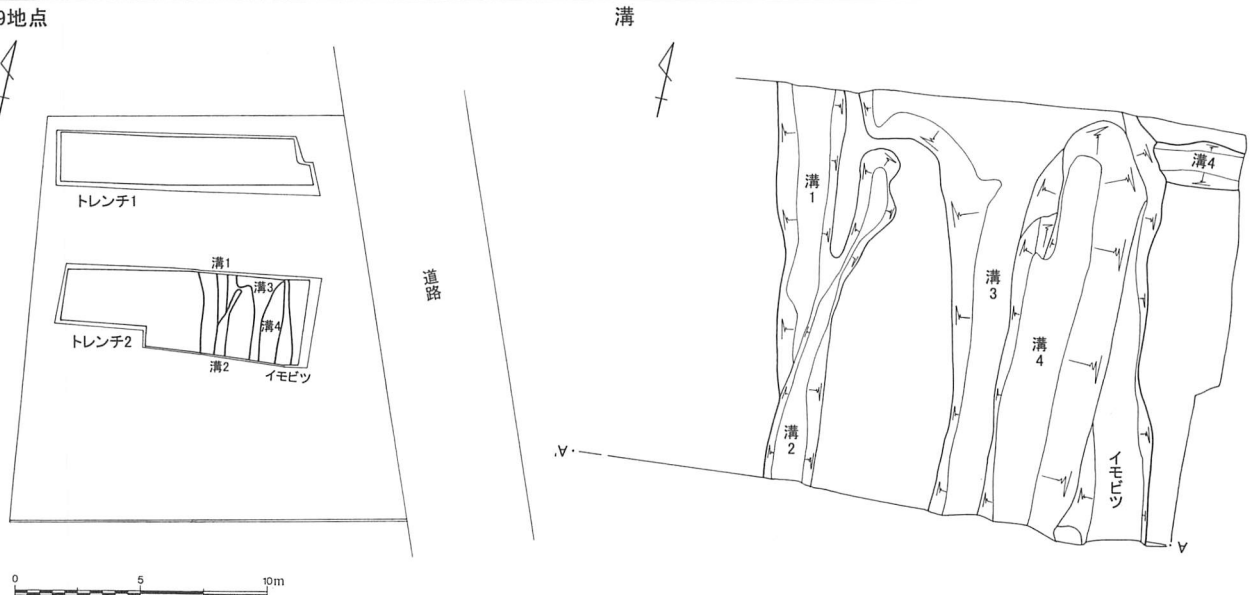


第62図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

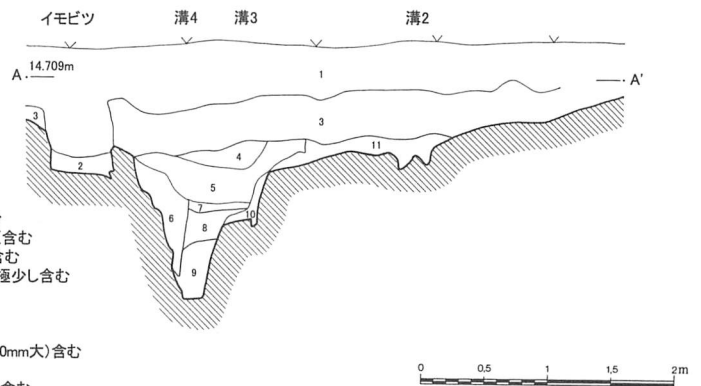
18地点



19地点



- 1.表土 黒褐色土 締り弱。ローム粒少し含む
- 2.黒褐色土 締り有。ローム粒(3~5mm)極多く含む、ロームブロック(1cm大)少し含む
- 3.暗褐色土 締り弱。ローム粒(3~5mm)極多く含む、ロームブロック(1~3cm大)多く含む
- 4.暗褐色土 締り弱。ローム粒(3~5mm)多く含む、ロームブロック(1~3cm大)少し含む
- 5.黒褐色土 締りやや有。ローム粒(3~5mm)少し含む、ロームブロック(1~3cm大)極少し含む
- 6.暗褐色土 締り有。ローム粒(1~5mm)多く含む
- 7.暗褐色土 締り有硬い。粘性やや有。ローム粒(1~3mm)極少し含む
- 8.暗褐色土 締り弱。ローム粒(1~5mm)やや多く含む
- 9.暗褐色土 締り有。粘性やや有。ローム粒(3~5mm)極多く含む、ロームブロック(3~10mm大)含む
- 10.暗褐色土 締り弱。ローム粒(3~5mm)極多く含む
- 11.黒褐色土 締り弱。ローム粒(3~5mm)やや多く含む、ロームブロック(1~3cm大)含む



第63図 神明後遺跡第18・19地点地点遺構配置図 (1/500・1/300)、溝 (1/60)

3 神明後遺跡第19地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2002年9月10日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、近接地では縄文時代の住居跡を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2002年9月18日から同年9月20日まで行なった。幅約2mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、溝を検出した。遺構の性格を確認するため掘り下げたところ、土地境の「根切り溝」であった。確認面まで40cmを測る。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない調査を終了した。

(2) 遺構

【溝】同一個所、同一方向で掘り返しが行なわれている。溝4は「根切り溝」。北に向かう途中で一旦立ち上り、東へ向かう。神明神社の土地境と一致する。

第25表 神明後遺跡第19地点溝一覧表 (単位cm)

No	確認面		底面		深さ	備考
1	35	~ 50	15	~ 33	10	溝2より古
2	15	~ 37	5	~ 23	22	溝4より古
3	37	~ 60	25	~ 30	45	溝4より古
4	35	~ 80	15	~ 45	117	土坑より古
土坑	67	× 320	40	×	35	イモビツ

4 神明後遺跡第20地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2002年12月12日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側に位置し、近接地では縄文時代の住居跡を検出しているため、原因者と協議の結果、遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2003年1月14日から翌15日まで行なった。幅約2mのトレンチ1本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、溝とピットを検出したが、確認面まで70cmを測り、建築による遺構への影響がないため慎重工事とし、写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない調査を終了した。

(1) 遺構

【溝1】南北方向に向かう。上幅85cm、下幅35cm、深さ20cm、立ちあがりほぼ直立する。

【溝2】溝1と平行し南北方向に向かう。2.2m離れる。上幅80cm、下幅50cm、深さ32cm、立ちあがりほぼ直立する。

第26表 神明後遺跡第20地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面		底面		深さ	備考
1	楕円形	78	× 52	66	× 36	26.2	
2	楕円形	28	× 21	12	× 9	58.4	

5 神明後遺跡第21地点

(1) 調査の概要

調査は土地造成に伴うもので、原因者より2003年1月7日付で「埋蔵文化財事前協議書」が町教育委員会に提出された。申請地は遺跡の北側の斜面地でさかい川に臨む位置に立地しているため、原因者と協議の結果、遺跡範囲と遺構確認の試掘調査を実施した。

調査は2003年1月10日から同年1月30日まで行なった。幅約2mのトレンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行なった結果、全てのトレンチで遺構覆土と思われる黒色土を検出した。遺構の性格を確認するため一部掘り下げて調査したところ、近世の溝、地下室、井戸、土坑、段切り状遺構などであった。確認面まで80~130cmを測る。工事は斜面から低地部を盛土するが、低地部分での遺構検出はなく、台地上は工事による遺構への影響は無いため慎重工事とした。写真撮影・遺構測量等記録保存を行ない調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

【段切り状遺構】調査区は台地縁辺の北斜面に位置するが、斜面全体が3段に段切りされていた。段切りの深さは40~110cmを測る。

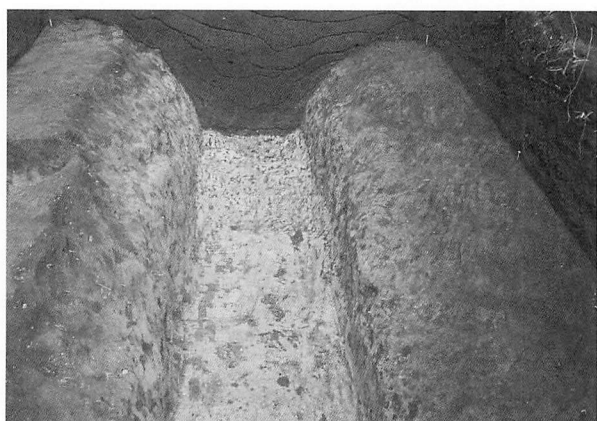
【井戸】調査区の南東、台地縁辺に位置する。南側一部の調査で完掘していない。確認した上幅170cm。

【地下室1】調査区の南東、台地縁辺に位置する。平面円形、断面台形を呈する。天井は崩落し、覆土中にロームブロックが堆積する。底径280×245cm、確認面からの深さ140cm、現地表面からは320cmを測る。出土遺物から時期は幕末。

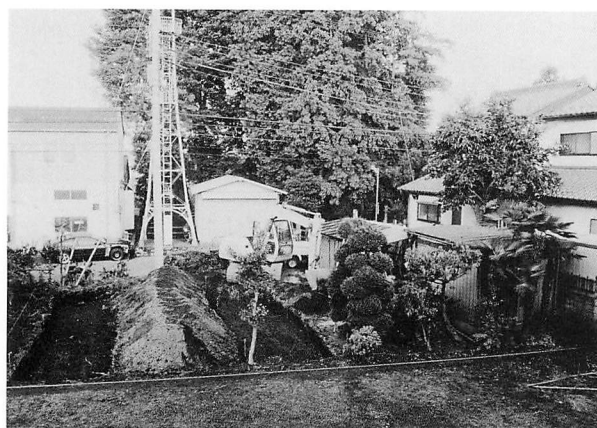
【地下室2】調査区の南西、台地縁辺に位置する。土坑1と重複し、土坑より古い。南側に入口と思われる突出部があり、突出部から続く高台の左右に小さく円形の土坑が連なる。天井は崩落し、覆土中にロームブ



神明後遺跡第18地点試掘調査



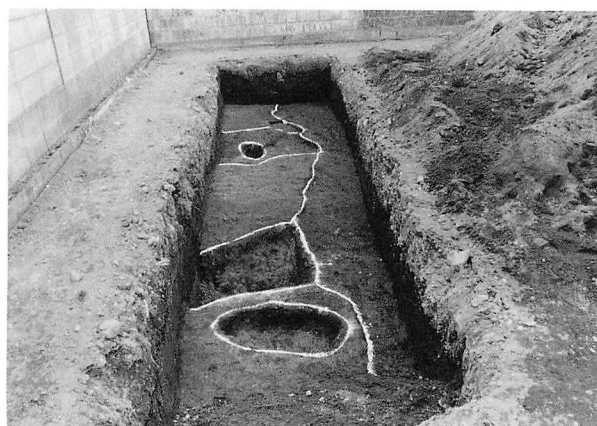
神明後遺跡第18地点溝



神明後遺跡第19地点試掘調査



神明後遺跡第19地点溝



神明後遺跡第20地点試掘調査



神明後遺跡第20地点試掘調査



神明後遺跡第21地点試掘調査



神明後遺跡第21地点本調査